

2018  
おもろ  
チャレンジ

## 水中考古学者への道

－水中に沈む古代ローマ都市の調査－

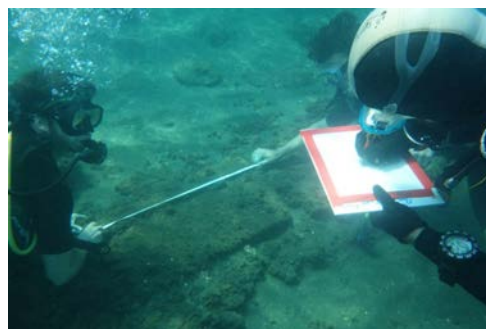
文学部 3年

山口 大地

スペイン、イタリア

2018年8月5日-

2018年8月28日



### 渡航概要と内容

私は *Sanisera Archaeology Institute* という学術機関が主催する水中考古学のフィールドスクールに参加しました。フィールドスクールはスペインのバレアレス諸島のメノルカ島に所在し、期間の前半は Ciutadella という街を拠点にメノルカ島北部の遺跡サニセラで水中調査を実施し、水中調査の方法論を学びました。後半はナポリに移動し、バイア湾に沈む古代ローマの商業用港“Porutus Lulius”を調査しました。

フィールドスクールの参加者はほとんどアメリカ、イギリス、オーストラリアと英語を母語とする人たちで、欧米以外の地域からの参加は私ただ一人でした。スクールの前半は朝6時起床で、6時半にバス停に集合し、街から45分離れたサニセラ遺跡に移動、午前中に水中調査、午後はスクールに戻り座学の授業。15時頃に終了という流れでした。

渡航中苦労したことはスペインにはシエスタ（昼休憩）の文化があるため、スーパーマーケットがスクール終わりの15時くらいにはまだしまっていて、飲み物をすぐ買いに行けなかったことです。また、日曜日はほとんどの店が閉まっているため、買い物には少し苦労しました。年中無休24時間営業の店が普通に存在する日本との違いを肌で感じました。

渡航中スクールのアメリカ人がマリファナを持ってきていて、マリファナを吸わないかと勧められたことがありました。アメリカのいくつかの州ではマリファナが合法とは聞いていたのですが、実際自分が勧められるような状況におかれるとは思っていませんでした。ただその場合は、冷静に日本の法律でマリファナが禁止されていることや、自分がタバコや薬物類は絶対に吸わないという意思を示すと、彼らも尊重してくれました。

スクールの後半はナポリに移動して、バイア海底遺跡の調査を行いました。毎日午前中は水中調査を行い、午後は関連の博物館や遺跡を見学するという充実した毎日でした。私は参加者で唯一水中カメラを持っていたため、記録係に任命され、遺物や遺跡の写真を撮って記録してしま

た。

ナポリはかなり不気味な街で、治安が悪そうでしたので基本的に一人では夜出歩かずトラブルに巻き込まれないよう注意して行動しました。



## ■ 渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回の渡航を通して、自分が違う国の人に囲まれてもなんとかやっていけるのだという自信ができました。英語には少し苦手意識がありましたが、アメリカ人の友達にも支えられ、かなり向上したと思います。また、スクールで出会った友達とは生まれた場所や育った環境が違っても、同じ歴史を好きになり、研究をしたいという気持ちをもっている人がいるのだと気付きました。同じ夢を持つもの同士で、心が通じ合う友達を見つけたことがこのスクールでの一番の収穫だと思います。人との出会いが自分の世界を広げてくれるのだと感じました。

## ■ 今回の経験をどのように今後生かしていくか

海外で3週間生活し水中考古学を学び、やはり海外で勉強をして、研究者になりたいという気持ちが一層強まりました。まずは、自分のできることとして今回の水中調査の経験をアジア水中考古学研究所に報告し、日本の水中考古学界に還元したいと思います。また、今回学んだ水中考

古学の方法論を自分の研究に取り入れ、卒業論文やそれ以降の研究に活かしていきたいと思います。

## ■ 今後本プログラムを希望する学生へのアドバイス

自分の興味あることに全力で取り組んでください。世界には面白いことがいっぱいあります。好きなことに全力でわがままに。ただし責任をもって取り組んでください！

## ■ 主な奨学金の使途

\*渡航費

\*宿泊費

\*食費

\*現地調査費、交通費 など